

横浜市教育委員会
臨時会会議録

- 1 日 時 令和5年2月16日（木）午前10時00分
- 2 場 所 市庁舎 18階共用会議室（なみき18・19）
- 3 出席者 鯉淵教育長 中上委員 森委員 四王天委員 大塚委員 木村委員
- 4 欠席者 なし
- 5 議事日程 別紙のとおり
- 6 議事次第 別紙のとおり

教 育 委 員 会 臨 時 会 議 事 日 程

令和5年2月16日（木）午前10時00分

- 1 会議録の承認

- 2 一般報告・その他報告事項
2022年度「第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」について
新型コロナウイルス感染症への対応について

- 3 審議案件
教委第64号議案 教職員の人事について
教委第65号議案 教職員の人事について

- 4 その他

[開会時刻：午前10時00分]

鯉渕教育長

それでは、ただいまから、教育委員会臨時会を開会いたします。

初めに、会議録の承認を行います。1月19日の会議録の署名者は四王天委員と大塚委員です。会議録につきましては、既にお手元に送付してございますが、字句の訂正を除き、承認してよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、承認いたします。字句の訂正がございましたら、後ほど事務局までお伝えください。

なお、1月25日の教育委員会臨時会及び2月3日の教育委員会定例会の会議録につきましては、準備中のため、次回以降に承認することといたします。

次に、議事日程に従い、教育次長から一般報告を行います。

木村教育次長

【一般報告】

1 市会関係

- 2/7 本会議（第2日）一般議案上程・質疑・付託、予算上程・説明
- 2/13 こども青少年・教育委員会
- 2/15 本会議（第3日）一般議案議決、予算代表質疑

教育次長の木村です。それでは、報告いたします。

まず、市会関係ですが、2月7日に本会議第2日目が開催され、一般議案上程・質疑・付託及び予算上程・説明が行われました。

2月13日に市会常任委員会であるこども青少年・教育委員会が開催されました。

2月15日には本会議第3日目が開催され、一般議案が議決され、予算代表質疑が行われました。

2 市教委関係

(1) 主な会議等

- 2/14～2/15 「はまっ子未来カンパニープロジェクト」学習発表会

(2) 報告事項

- 2022年度「第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」について
- 新型コロナウイルス感染症への対応について

次に、教育委員会関係の主な会議等ですが、2月14日、15日に「『はまっ子未来カンパニープロジェクト』学習発表会」が市庁舎1階のアトリウムで開催され、2月14日に鯉渕教育長、中上委員、森委員が出席し、大塚委員がオンライン出席し、中上委員、森委員が挨拶されました。また、2月15日に四王天委員が出席し、大塚委員がオンライン出席し、四王天委員が挨拶されました。

次に、報告事項として、この後、所管課から2点報告いたします。まず1点目ですが「2022年度『第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト』について

て」、2点目は「新型コロナウイルス感染症への対応について」報告いたします。

私からの報告は以上です。

鯉渕教育長

報告が終了いたしました。何か御意見・御質問等ございますか。

中上委員

今の報告の中で触れられた「はまっ子未来カンパニープロジェクト」について少し感想と意見を言いたいと思います。当日驚いたのは、70校126の取組なのですが、小学校の1日目は1,400人、次の日は2,200人と参加人数が多く、オンラインでやり取りを行って、広がりパワーに感激しました。2月14日の挨拶でも申し上げたのですが、「知」「徳」「体」「公」「開」の中で、特に「公」の「公共心と社会参加」の「横浜を愛し、地域や社会のために、他者と協働する力」。それと「開」の「未来を開く志」ということで、横浜開港以来の「進取の精神」ですから、まさに横浜市を愛して横浜市から持続可能な社会の実現に取り組んでいく。「知」「徳」「体」「公」「開」全部で「自ら学び 社会とつながり ともに未来を創る人」。この事業を表しているのだなと思いました。特に2月14日の第2部で、子供たちが将来の横浜市について語るどころがありました。聞いていて、まさに横浜市を愛して地域を愛するのだなと感じました。山中市長にも議会の関係で忙しい中、時間を割いて来ていただいて挨拶を頂きましたが、山中市長にも、横浜市を語るどころに入ってもらってもっと盛り上がったかなと思いました。時間が許さなかったわけですが、そのように思いました。いずれにしても、オンラインの力と言いますか、みんなで取り組むところは私もすばらしいなと思いました。

意見ですが、一つ目は、今年は両方とも小学校の参加でしたよね。第7回になって、今まではたしか高等学校も当初は入っていたような気がします。高校生は違う枠組みでの探求型の発表会に去年オンラインで参加しました。また、それぞれアドバイザーの方のコメントにありましたが、ここに来るまで先生たち、企業の方をはじめ協力があつたわけですが、やはり次のステージで、難しさや失敗例など気付きをもっと挙げていってほしいみたいな意見もありました。私が思ったのは、例えば小学生がいきなり高校生の取組を見ても分からないと思いますけれども、中学生が見ると非常に勉強になると思います。また、高校生になって起業家、いわゆるアントレプレナーシップを意識して探求していくわけですから、特に中学生が高校生の発表を見て自分も刺激されるなど、それが本当のアントレプレナーシップ教育にもなるのかなと思います。学年を超えて行っていただければというのが一つのお願いです。

二つ目は、小学校もそうですが、企業とこの事業を関わりにして、地域の方に応援団になってもらえるわけです。その応援団は非常に大事です。ただ、1回目から7回目にかけて協賛が少なくなっているのです。新型コロナウイルス感染症の影響は企業も大変だと思いますが、せつかくの機会なので、もう少し教育委員会事務局が営業して努力されたほうが良いかなというのが意見です。何かありますか。

石川学校教育
企画部長

学校教育企画部長の石川でございます。まず、委員の皆様方には御参加いただきましてありがとうございます。先ほどの参加数のことですが、2日間で、チャットも含めて約3,000人のたくさんの子供たちが参加してくれて、それを会場で発表している学校の子供たちに対して、チャットでオンラインの子供たちが意見や感想を言うというような新しい取組でしたが、評判は大変良かったの

で、今後はもっと中身と質を高めていけるようにしていきたいと思ひます。

また、中上委員御指摘の中学校・高等学校の参加につきましては、取組自体は中学校も高等学校もあります。ただ、発表会に関しては受験の時期など少し時期の問題もありまして、それは私たちが工夫しなければいけないことなのですが、おっしゃるように今後、中学生や高校生がどのように取り組んでいるかを小学生が見る、あるいは中学生・高校生が小学生はこのように取り組んでいるということを見る。それには大きな学びがあると思ひますので、その辺りは工夫していきたいと思ひます。あと、協賛につきましては、今後我々も努力していきたいと思ひます。

鯉渕教育長

ほかにかがですか。

森委員

「はまっ子未来カンパニープロジェクト」の発表会には何度か参加させていただいていますが、本当に良い取組だと思ひております。この発表会は、子供たちがどんな課題を設定して、それに向かってその課題を良く知って、取り組んでみて、その結果どんなことに気付いたか発表されている会になっています。その中でこのプロジェクトはいろいろな連携をすることが特に特徴的だと思ひていて、大学など、学校によっては諸外国とオンラインでつなげながら課題をよく知り、考えるということをしていました。2月14日後半の第2部「はまっ子が横浜の未来を語る会」でどんな横浜市にしたいかという中で、一つの学校で「普通の横浜」と座談会の中で子供が答えていましたけれども、なぜそうしたかという背景に、諸外国とつながった結果、自分たちの環境がいかにかたり前ではないかということに気付いたそうです。今ある平和や環境を守り続けることの意義を実感したという話でした。それは外と接して、自分たちの価値観の外側を知ることによって気付けたことだと思ひますので、連携によってどんな気付きが得られるかということも更に意識しながらこのプロジェクトを進められると良いと思ひました。非常に良い発表会でございました。ありがとうございます。

鯉渕教育長

よろしいでしょうか。それでは次に、「2022年度『第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト』について」、所管課及び賞をお受けになった学校から御報告をさせていただきます。

石川学校教育
企画部長

学校教育企画部長の石川でございます。「2022年度『第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト』について」御報告を申し上げます。公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団が主催する2022年度自然体験活動支援事業、これを「第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」と申しますが、こちらにおいて横浜市立いずみ野小学校が学校部門で「優秀賞」を受賞いたしました。詳細につきましては所管課と当該の学校から御報告申し上げます。

根岸小中学校
企画課長

小中学校企画課長の根岸です。それでは、「2022年度『第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト』について」御説明申し上げます。「1 概要」ですが、石川学校教育企画部長より説明がありましたように、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団の主催により、このコンテストが開催されております。「トム・ソーヤースクール企画コンテスト」につきましては、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団が提唱する「自然体験は子どもたちの体力、創造力、チャレンジ精神を育む」との考えに基づき、全国の学校や団体から自然体験活動の企画案を公募し、その実施を支援するとともに、優秀な活動団体を表彰すると

いうものになっております。いずみ野小学校の活動につきましては、本日、中村副校長、担当の島村教諭にお越しいただいておりますので、後ほど詳細を御説明申し上げます。

続いて、「2 2022年度『第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト』について」御説明申し上げます。自然体験活動の企画案を公募し、応募された企画案の中から、ユニークで創造性に富んだ企画を立案した50の団体に実施支援金が贈呈されることになっております。

さらに、50団体から提出された活動報告書を審査し、学校部門では「文部科学大臣賞」と「優秀賞」、これは全国で2校ということになっております。その1校にいずみ野小学校が本年度選ばれました。また、一般部門では「安藤百福賞」と「優秀賞」が選定、表彰されております。そのほかに「推奨モデル特別賞」、「トム・ソーヤー奨励賞」、「努力賞」が選定されます。

2ページ目を御覧ください。この表彰の「(1) 主催」につきましては、公益財団法人安藤スポーツ・食文化振興財団になります。「(2) 審査委員会」につきましては、安藤理事長が委員長を務め、以下、委員の方々が務めております。

「(3) 表彰式」は、令和5年1月28日に開催され、安藤百福発明記念館横浜(カップヌードルミュージアム横浜) イベントホールで開催されました。出席者は、安藤理事長、文部科学省から朝倉室長、横浜市からは吉川横浜市こども青少年局長、そして鯉淵教育長等が参加されました。また、辛坊治郎海洋冒険家による講演会も開催されたという状況になっております。

(4) は「2022年度の主な表彰団体」になっておりますので、御覧ください。それでは、活動について学校から説明いたします。

中村いずみ野
小学校副校長

いずみ野小学校副校長の中村でございます。このたび、本校の取組であるいずみ野小地産地消プロジェクトが「第21回トム・ソーヤースクール企画コンテスト」において「優秀賞」を受賞いたしました。本日はこのような御報告の機会をいただきありがとうございます。事業の詳細につきましては、学校内の当事業を担当しております教諭の島村より御報告させていただきます。

島村いずみ野
小学校教諭

いずみ野小学校教諭の島村でございます。「いずみ野小地産地消プロジェクト」について御報告します。お手元の資料3ページを御覧ください。「目的」について御覧ください。「企画の内容」としては、お米や野菜などの食べ物や、綿花を栽培することを通して、児童と生産者とのつながりをより活性化させる。また、新たな伝統を作る活動を通してSDGsの視点を意識し、いずみ野のまちと自然を愛する気持ちをもった児童を育成することです。「①1年生から3年生のさつまいもづくり」では、毎年1tほどのさつまいもが取れます。苗植えから収穫まで子供たちが行っております。

4ページ目を御覧ください。「4年生から6年生のもち米づくり」では、こちらも毎年300kg前後取れる活動となっております。もみまきから代かきをはじめ、精米まで5年生を中心として行っております。どちらの活動も教職員だけでなく、農家の方の御厚意で田んぼや畑をお借りし、地域の農家の方、ボランティアの方や保護者の方に協力していただきながら行いました。具体的には、さつまいもの日々の栽培管理、もち米の育苗、田の水管理、雑草刈りなどで、子供や職員では行き届かない細やかなところで協力していただきました。もち米に関しては、田んぼまで子供の足で20分ほどかかり、こまめに観察に行けないため、子供たちが相談して、植えきれなかった苗で学校の敷地内に用意したミニ田んぼとバケツ稲も育てました。その中で細やかな作業が必要ということに改めて気が付

き、農家の方や地域のボランティアの方々への愛を知ることとなりました。

「4年生から6年生の有志による野菜づくり」活動です。本校では「学び隊」と呼んでおります。この活動では、夏野菜づくりや冬野菜づくりを行っていません。今年度は、夏野菜ですとミニトマトやトマト、ナス、ピーマン、キュウリ、スナップエンドウ、トウモロコシ、ジャガイモなどを夏に収穫し、冬野菜では白菜、大根、ミニ白菜、水菜、ハウレンソウ、小松菜、カブ、ブロッコリー、カリフラワーなど、ほかにもあったのですが、たくさんの野菜を収穫しております。地域の農家のボランティアの方々にアドバイスをもらい、子供自身でも栽培管理の方法を調べながら活動を進めました。また、地域の夏祭りでは、活動内容を伝えるために夏野菜コーナーを設け、取れたての新鮮な野菜を提供しました。学校内ではポスターや放送で旬の野菜の紹介を行い、活動の楽しさや良さを学校の子供たちに発信しました。

5ページ目を御覧ください。12月には、いずみ野小学校が独自で行っている地産地消給食であるスーパー給食で、野菜づくり活動の野菜も使われています。通常の給食でもしばしば、ボランティアでもある地域の農家の方の野菜を使い、オリジナルの給食が提供されています。

「活動を通して子供たちが成長したこと」としては、「①伝統に感謝することができたこと」、「②地域とのつながりを改めて感じたこと」、「③作物を大切に食べようという気持ちが芽生えたこと」、「④命をより大切にしようとする心が育ったこと」です。二つ御紹介させていただきます。二つ目の、「地域とのつながりを改めて感じる」とについては、地域の農家の方をはじめ、ボランティアの方は無償で活動を手伝ってくださっています。その中で、この環境が当たり前ではない、そして自分たちがそれほど愛されているということを実感していました。四つ目の、「命をより大切にしようとする心が育ったこと」については、地域の方から、作物には命があって子供を育てるように丁寧に世話をすると成長していく、この命を大切にしていくというのは、人間を含め、全ての命を大切にしていくことにつながるといってお話を伺うことができました。それを受けて、食べ物を大切にしていこう、フードロスをなくしていこう、自分の命を大切にしようという思いを子供たちは持ちました。

最後に、職員としての課題です。さつまいもづくりともち米づくりは、生活科と総合的な学習の時間の活動で行われています。継続的にカリキュラムの改善を行い、子供たちの活動がより主体的なものになるようにしていきたいです。また、農業は天候に左右されるので、学校行事との調整にも常に配慮していかなければなりません。しかしながら、どの活動も地域の多くの方々から職員の負担を軽減するために改善案を考え活動して下さることで、職員は子供たちの指導に意識を集中しやすい仕組み作りができました。いずみ野小学校の学校教育目標「自分が好き 友達が好き 学校が好き このまちが好き」の実現のために、子供、教職員、保護者、地域が一体となって地産地消プロジェクトを推進してまいります。報告は以上となります。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御意見・御質問等ございますか。

木村委員

本当におめでとうございます。時間があれば、どのような野菜なのか、品種や糖度はどのくらいかなど聞きたいのですが、それはさておき、食べてみたいなと思いました。一つ質問なのですが、最後の成長したことというのは、目的に対する子供たちの振り返りからまとめたものだと思いますが、これ以外に振り返りの中で出てきた印象的な言葉などがあれば教えていただきたいです。

島村いずみ野
小学校教諭

お答えさせていただきます。子供たちの振り返りの中では、作業についての振り返りが多く、「泥にまみれる」や、「物を成長させる」ということに対して、貴重な体験であるなという振り返りがとても多いです。また、社会科の学習など近隣校の話を聞いたりして、より特別な活動なのだなという振り返りをしていました。以上です。

木村委員

こういった体験学習・活動というのは多分、ジョン・デューイの教育論の中のプラグマティズム、いわゆる実用主義の中の活動と合致すると思いますけれども、取り組んだことの振り返りを次にどう生かすかで、今後の教育活動の課題もできるしステップになると思いますので、ぜひまた続けていただけたらと思います。以上です。

鯉渕教育長

ほかにありますか。

大塚委員

おめでとうございます。今日の御報告を聞いて、子供たちの生き生きとした姿が浮かんでくるのですが、資料の3ページで、1年生から3年生は3年間さつまいもづくり、4年生から6年生は3年間もち米づくり。子供たちは同じ農作業の体験でも学年を追うごとに、そこから発見することや学んでいくこと、新たな課題が、成長とともに活動の内容が深まっていくと思います。特に3年間続けることでの手応えというのでしょうか、そういった部分を一つ教えていただきたいと思います。

あともう1点は、学校はほぼ1年ごとに担任が替わってしまう状況の中で、また来年も活動を続けたいという思いがあってもなかなか続いていきませんが、その部分で、3ページの3番で有志とあって、思いの高まった子供たちが更にそれを続けていく。そういう学びの場が実現できていることは素晴らしいと思います。ただ、これは学校の体制が整っていないと、このような思いの子供たちの、教育課程外での取組の継続は非常に難しいのではないかと思います。そういったところの苦労等がございましたら教えていただきたいと思います。

中村いずみ野
小学校副校長

最初に、いかに持続可能なものにしていくかということですが、コロナ禍に遭ったことで、学校長をはじめとする職員のみんなで、ピンチをチャンスにと考えました。コロナ禍において、3年前は子供たちの活動がほぼできませんでした。そこで、私たち教職員が全て自分たちの手で行おうということで取り組みますと、翌年、子供たちに伝える、指導する、支援するときに、誰がその学年の担任になっても全部大丈夫なようにしておこうという意欲を持ちました。令和3年度からはほぼ子供たちの活動に移していったわけですが、そのような私たちの意識を変えていくこと、私たちには異動がありますので、誰が入ってきても分かることをポイントにした、持続可能なものにしていくという教職員体制を共通理解できたことがとても大きいかなと思います。3年間の手応えについては、島村教諭から話をさせていただきたいと思います。

島村いずみ野
小学校教諭

子供たちはさつまいもを3年間、もち米を3年間と続けていくのですが、学年を追うごとに伝統というものをすごく感じているなと思っています。保護者の方もいずみ野小学校出身という方が非常に多くて、子供たちに「私のときから取り組んでいるんだよ」というお話をされている中で、この何十年も続いている伝統をこれからも大切にしていきたいという思いが芽生えてきているのが成果かなと

思います。また、学年を追うごとにまちというものに対して考えることが多くなっていて、学校だけでなく、このまち全体から支援していただいているこの活動が続いて伝統となっているという点について、子供が自ら気が付いていることに関しては手応えの一つかなと思っております。

大塚委員

ありがとうございます。伝統というのは分かるようで分かりにくかったり、ただ、そこに脈々と続いていく人々の思い、地域の人たちの思い、自分たちの親の思い、そして今そこに自分たちがまたつながっていくという実感を子供たちが持てる。そういった学びが素晴らしいと思いました。ありがとうございます。

鯉淵教育長

ほかによろしいでしょうか。

四王天委員

受賞おめでとうございます。コンテストという形態なので、必ず順位付けが出てくるかと思えます。この評価に至るまでの経過というよりも、出た後の反省が一番大事かと思えます。学習の機会が得られると思えます。今年度だけではなくて、以前からも何回かチャレンジされていると思いますが、今回、上から2番目の賞を得るまでに至った何か要因や、改善点と言いますか何か工夫されたことがあれば、お話しいただければと思います。

島村いずみ野
小学校教諭

お答えさせていただきます。今回の応募も合わせて今まで3回チャレンジさせていただいております。私に関しては2回なのですが、今までは有志の活動のみを提出させていただいて、どちらかというところで行っている活動のみを報告していたので、まとまりがあまりないと言いますか、活動を一つひとつ報告している形でした。今回は学校全体、まち全体の取組として活動を報告させていただいております。その中で、教職員も日々、目的に帰りながら、筋が通ったような、ストーリーがあるような活動にしていけたらということで、それを報告させていただいたことが一つ、賞を受賞した点なのかなと思います。あと、表彰式のときに言っていたのですが、私も意識していた点として、地産地消を前面にアピールできるように私も報告を工夫しました。以上です。

四王天委員

賞にはまだもう一つ上があるのですが、それを得るには何かアイデアがありますか。

島村いずみ野
小学校教諭

表彰式を経てすごく反省したのですが、もう一個上の賞を受賞した学校は、子供たちがすごくどきどきわくわくしている報告をされていきました。私の学校もどきどきわくわくしていたのですが、それを上手く伝え切れなかったのが反省でして、次回応募するときはどきどきわくわく、子供の目がきらきらしているようなことをもっと伝えられるような報告ができればと思っております。

四王天委員

楽しみですね。生活科と総合的な学習の時間だけではなく、生徒がもっと「活動したい」となってくるのではないかと、そのような期待もしております。ありがとうございます。

鯉淵教育長

ほかにはいかがでしょうか。

中上委員

受賞おめでとうございます。すごいですね。全国で一つ。まだ上があるから、まだチャレンジできますね。御説明のあったように、地産地消、郷土愛など、先

ほどのはまっ子未来カンパニープロジェクトに通じる活動ですよ。今日改めて御報告を聞くと、これが生きた食育だなと実感しました。教育委員会事務局でも、第4期横浜市教育振興基本計画で食育も大事なポイントだということになっていますし、SDGsでも問題になっていますが、食料安全保障や食料の自給率をいかに上げるか。先ほどの子供たちの成長した振り返りを見ても、伝統に感謝する、食物を大切に食べよう、食品ロスの話や、命を大切になど、この辺が本当に実感できたのではないかと思います。以前に教育委員会会議で言ったことがありますが、米は八十八の手間がかかってできている。そう知ると、お米を大事に食べようという気にもなりますし、米から日本の伝統食の発酵食品でこうじを造ったりみそを造ったり、いろいろ発展できるわけです。私も自宅でみそや餅を作ったりしているのですが、そういった楽しみも、例えば学校のイベントのときにお餅を焼いてまた地域と交流するなど、現在、謝恩会はできませんが、卒業のときにお餅を出したりすると、上級生も喜んで卒業するのではないかなど、いろいろ膨らんでいきますよね。まず食べ物に対する感謝を学ばれたと思います。そこで表彰されたのだと思います。私は、そばも取り組んでほしいですが、そばはアレルギーなどで学校ではなかなか取り組めないですよ。

最後に、先ほどの2月14日のはまっ子未来カンパニープロジェクトの最後の発表で聞きましたが、未利用の魚を使って給食20万食に活用したそうです。また、学校で作ったトウモロコシなど給食に使われているそうです。自分たちが作ったものを自分たちで食べるのはすばらしいことだと思いますが、この前のはまっ子未来カンパニープロジェクトも未利用サバを商品化して企業などで完売しているのです。たまたま今日のニュースを見たら、岩手などではサバの缶詰の出荷を停止しているそうです。なぜかという、地球温暖化の影響だと言われています。そのように、未利用で今まで捨てていた魚を商品化して、企業がそれに協力してくれるということは、小学生のパワーだと思うのです。ですから、こういうのを無駄にしないで行うという、生きた食育が認められて表彰されたということはまたすばらしいと思います。また継続してチャレンジをお願いしたいと思います。以上です。

鯉淵教育長

ほかにはいかがでしょうか。

森委員

御報告ありがとうございます。そして、受賞おめでとうございます。畑の体験をしている学校はたくさんあると思いますが、今回の受賞の背景を改めてお聞きしまして、子供たちの姿勢や地域の皆さんとの連携、そのプロセスが非常に評価されたのだと思います。それは1年、2年でできることではなく、何年もかけて皆さんと取り組んできたことなのだろうと思います。学校の皆さんにも地域の皆さんにも心から敬意を表します。

一つ質問ですが、最後の課題というところで、子供たちの活動がより主体的になるようにということがありました。SDGsの観点も生かしながらということが企画の内容にもありましたけれども、これを生かしながらどのようなことをしていったらより主体的になるかと思っていられるか、今の段階のお考えでも構いませんので、何かヒントを頂けたらと思います。お願いします。

中村いずみ野
小学校副校長

この取組自体も、お米づくり、お芋づくりに関しましては40年の歴史があります。そして、有志による学び隊の活動も平成17年から続いています。最初の頃は、畑や田んぼで何かを作ることは、子供たちは非常に興味・関心を持っていたと聞いておりますが、徐々に慣れてきたところがありました。職員も入れ替わり

がありますので、やらされ感がどうしても出てきてしまうということが課題としてありました。そこで、担任がこの取組を学びにつなげなければいけないと気付いて、学校内でいろいろ発信していく中で、先ほど島村も言っていました、生活科や総合的な学習の時間、あるいは社会科も含めて各教科・領域等で学んでいくことにつなげていくことを一つ、みんなで共通理解をいたしました。その結果、自分たちが「何のためにこの取組を行っているんだろう」という明らかな目的意識ができました。毎年行っている農家の方に感謝する会において、今までは「ありがとうございました」という言葉ばかりだったと農家の方から聞いていました。もう40何年続いていたことですが、2年前に子供たちから「また来年も畑を貸してください」という言葉が自然に出てきて、農家の方が、こんな言葉ももらったのは初めてだと私に逆に感謝の言葉をいただきまして、子供たちが学んでいるということがとても大事で、それを伝えたということが一番大きな振り返りかなと思っておりまして、それが現在とても有意義な活動になっていると感じております。

森委員

ありがとうございます。いろいろなSDGsのアイコンも使いながら考えてこられたり、今お話があったみたいに目的をいろいろと確認しながら進めてこられたことも、改めてお聞きしながら気付きもありました。非常に短い時間で毎年いろいろなことに取り組んでいかれると思いますし、多くのもので得られていることも分かるのですが、同時に、「このSDGsのアイコンはこれだよ」と、ただアイコンをひも付けるだけというよりは、「自分はこの地産地消のプロジェクトの中で何が気になっているんだろうか」ということや、あとは、一つを取ればもう一つがうまくいかなくなる。SDGsはそういうことだと思いますが、手間暇をかければ価格が高くなったり、環境配慮を考えればこうなってしまうたり、全部をバランス良くということがいかに難しいかということで、最終的にはすごくもやもやして終わると思いますが、良い具合にすっきりしたり分かったで終わらせない、何が今、自分の中でももやもやして残っているのかということを通じていくのかとも思いました。改めておめでとうございます。ありがとうございます。

木村委員

今、質的なところなど、いろいろ質問や意見があって少し聞き逃したかもしれませんが、ちなみに収穫量はどのぐらいあるのですか。

島村いずみ野
小学校教諭

さつまいもに関しては、毎年1tほど収穫しております。もち米に関しては、これも毎年300kg前後収穫している形になっていて、野菜については量ったことがないのですが、子供たちが大きく抱えながら白菜を持って帰ったり、エコバッグいっぱい野菜を詰めて、ランドセルより重いと言いながら背負って帰っている姿などを見ると、かなりたくさん取れているとは思っています。

木村委員

活動などもすごいですが、量を聞くと更にすごいなと実感しました。また続けてください。以上です。

鯉渕教育長

よろしいでしょうか。それでは、次に移ります。「新型コロナウイルス感染症への対応について」所管課から御報告いたします。

青石人権健康
教育部担当部
長

人権健康教育部担当部長の青石です。よろしくお願いたします。本日は「新型コロナウイルス感染症への対応について」、教職員・児童生徒の新型コロナウイルス感染状況及び卒業式におけるマスクの着用について御報告させていただきます。詳しくは担当の課長より説明させていただきます。

長田健康教
育・食育課長

健康教育・食育課課長の長田でございます。よろしくお願いたします。「新型コロナウイルス感染症への対応について」。「1 教職員・児童生徒の新型コロナウイルス感染状況」でございます。冬季休業明けの令和5年1月以降、下記の表のとおりでございますけれども、感染者の報告数は減少傾向となっております。市立学校では、引き続き、衛生管理マニュアル及び通知等に基づきまして、感染予防のための取組を徹底しているところです。令和5年2月13日月曜日から2月14日火曜日までの感染者数ですが、児童生徒が172人、教職員が10人、新規学級閉鎖数は2学級となっております。

おめくりいただきまして、2ページ目でございます。「2 卒業式におけるマスクの着用について」御報告申し上げます。文部科学省より令和5年2月10日に「卒業式におけるマスクの取扱いに関する基本的な考え方について」が発出されております。当該通知では、「卒業式の教育的意義を考慮し、児童生徒及び教職員は、式典全体を通じてマスクを着用せずに出席することを基本」とするとされております。当該通知及び今後の神奈川県等の動向を踏まえまして、現在、本市の取扱いを検討中でございます。また、学校現場とも相談して対応していきたいと考えております。

なお、文部科学省通知の抜粋を以下に掲載させていただいております。主なところでは、「1 基本的な考え方」でございますけれども、「児童生徒及び教職員については、入退場、式辞・祝辞等、卒業証書授与、送辞・答辞の場面など、式典全体を通じてマスクを外すことを基本とする」としております。また、丸の二つ目、「来賓や保護者等はマスクを着用するとともに、座席間に触れ合わない程度の距離を確保した上で、参加人数の制限は不要」ということです。また、「6 国歌・校歌等の斉唱、合唱等」につきましましては、マスクを着用ということとで通知が来ております。併せまして、「7 留意事項」を御覧ください。丸の四つ目でございます。「基礎疾患があるなど様々な事情により、感染不安を抱き、マスクの着用を希望したり、また、健康上の理由によりマスクを着用できない児童生徒もいることから、学校や教職員がマスクの着脱を強いることのないようにすること。また、児童生徒の間でもマスクの着用の有無による差別・偏見等がないよう適切に指導すること」と触れられておりますので、こちらに留意しながら学校へ伝えていきたいと考えております。説明は以上でございます。よろしくお願いたします。

鯉淵教育長

説明が終了しましたが、何か御意見・御質問等ございますか。

四王天委員

御説明ありがとうございます。卒業式が迫っている中、横浜市の方針としては、国の通知に準ずるような形になるのでしょうか。

長田健康教
育・食育課長

御質問ありがとうございます。基本的な考え方につきましては、国の通知に沿ってと考えております。また、もともと横浜市におきましては、卒業式については保護者の入場は制限する必要がないという話も学校に伝えておりますし、会話が証書の授与、入退場、写真撮影につきましても、もともとマスクを外すことが可能と伝えております。今回の通知はこれらの推進に関して後押しになって

いると思っておりますので、そこも含めて、また、学校とも対話をしながらきちんと通知させていただこうと思っております。

四王天委員

いきなりマスクを全員外すというのは、今までの対応からすると激変に当たるかなという気がします。現在、体育の授業などではマスクを外しているかと思いますが、いきなり式典でマスクを全員外しましょうという激変に対する抵抗感があるかと思います。いろいろな制度などを変えるときに、緩和措置みたいな、少し段階を追ってというような手法を取る方法もあるかと思いますが、そのような試みは何かありますか。

長田健康教育・食育課長

ありがとうございます。先ほど御説明させていただいていますが、この2年間の中で、「写真撮影のときはマスクを外そう」など、そういった試みをしています。マスクを外す機会が増える形になりますが、市立学校におきましてはもともと外せる機会を増やしておりますので、徐々に外せる子供たちも増えていくかなと感じております。

大塚委員

御報告ありがとうございます。今、四王天委員も激変とおっしゃいましたが、学校では恐らく卒業式に関する来賓への通知など、様々な動きがある程度進んでいると思います。そんな中で、本市は取扱いを今検討中ということですが、できるだけ早急に現場に出していただきたいというのが願いです。マスクの着脱は、一人ひとりの子供たちにとっても考え方が様々です。自分の健康状態、親の考え方、それに直面するのは、クラス担任になるのです。そうすると、そのクラス担任の考え方が子供たちの不安にどう向き合うかによって、大きく分かれ道になってしまうなど少し危惧します。そうしますと、学校としては、いかに教職員内でマスクについての共通理解を図るかが重大事項になります。それが共通理解されることによって、どの子にも差別感のない、偏見のない対応になっていくということは確実ですので、その点を踏まえまして、早急に通知を出していただきたいと思っております。

鯉渕教育長

ほかにございますか。

森委員

今の塚委員の話とも少し重複しますが、この2年から3年、顔全体を見られないことに子供たちが慣れておりますので、全体をみんなの前で出していくことはとても緊張するだろうと思っております。これから横浜市としてなるべく早く考え方を発出するという事だと思っておりますが、文部科学省では外すことを基本としつつ、着脱に対する不安があれば本人も選べるということだと思っております。自分がどうしたいのだろうということを話す場面を設けていかないと、その日、その朝、その直前に、「基本はこうだけれどもみんなそれぞれ選んでね」という形だと、周りを見ながら判断することになりかねないと思うので、そこを考えていくステップみたいなところは必要だろうと思っております。

鯉渕教育長

ほかにございますか。よろしいでしょうか。それでは、ほかにも御意見がなければ、次に議事日程に従い、審議案件に移ります。まず、会議の非公開についてお諮りします。教委第64号議案及び教委第65号議案「教職員の人事について」は人事案件のため、非公開としてよろしいでしょうか。

各委員

<了 承>

鯉渕教育長

それでは、教委第64号議案及び教委第65号議案は非公開といたします。
審議に入る前に事務局から報告をお願いします。

片山総務課長

2月3日に団体から、「『第4期横浜市教育振興基本計画』に関する要望書」が提出されました。また、2月8日に団体から、「日の丸・君が代に関する要請書」が提出されました。また、2月13日に個人の方1名から、「『議題の公開・非公開と議題設定』に関する要望書」が提出されました。これらの要望書等につきましては、事務局で対応を調整の上、教育委員会で審議が必要な場合は、次回以降にお諮りしたいと思います。委員の皆様は内容の御確認をよろしくお願いいたします。

次回の教育委員会定例会ですが、3月6日月曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は、3月17日金曜日の午前10時から開催する予定です。

鯉渕教育長

皆様、よろしいでしょうか。次回の教育委員会定例会は、3月6日月曜日の午前10時から開催する予定です。また、次回の教育委員会臨時会は、3月17日金曜日の午前10時から開催する予定です。別途、通知いたしますので、御確認ください。

次に非公開案件の審議に移ります。傍聴・報道機関の方は御退席願います。また、関係部長以外の方も退席してください。

<傍聴人及び関係者以外退出>

教委第64議案「教職員の人事について」
(原案のとおり承認)

教委第65号議案「教職員の人事について」
(原案のとおり承認)

鯉渕教育長

本日の案件は以上です。これで、本日の教育委員会臨時会を閉会といたします。

[閉会時刻：午前11時21分]